

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立大谷小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

住所 〒988-0273  
宮城県気仙沼市本吉町三島28

E-mail : ohya-sho@kesenuma.ed.jp

Website : \_\_\_\_\_

児童生徒数：男子 97 名 女子 99 名 合計 196 名  
 児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化  そのほか ( 福祉 )

#### 4. 活動内容

テーマ

地域を見つめ、調べ、よさを伝え合う児童の育成

### 1 本校のESDでめざすもの

#### (1) ESDのねらい

地域の人々や自然とのふれ合いを通して、課題を見つけ、粘り強く、主体的に追究しながら、生活に生かしたり、自己の生き方を考えることができる児童を育てる。

#### (2) ESDで育てたい資質・能力

- ・多面的、総合的に考える力
- ・コミュニケーションを行う力
- ・つながりを尊重する態度
- ・進んで参加する態度

※めざす児童像

学年	地域を見つめる姿	地域を(で)調べる姿	よさを伝え合う姿
低	自分とかかわりのある身近な人や自然などに興味・関心をもつ子ども	事象との出会いから、見つけたり、比べたり、例えたりしながら気付く子ども	身近な人に対し、自分とのかかわりや気付いたことなどを言葉や絵で表す子ども
中	人や自然とのふれ合いを通して、自ら探究したい課題を見つける子ども	見聞や体験を通して情報を集めたり、整理・分析したり、まとめたりする子ども	調べたことを基に、生活に生かそうと考えたことを筋道立てて発表する子ども
高	地域社会の変化をとらえ、未来に向けて解決すべき課題に気付く子ども	地域の思いや願いを感じながら、広く情報を収集し、課題を解決しようとする子ども	自己の考えの根拠を明らかにしながら多様な方法で発信する子ども

### 2 今年度のESDの概要

#### (1) 実践の概要

- ・地域の自然、文化、福祉等を視点に、地域を見つめ、調べ、そのよさを伝え合う活動に取り組む。
- ・生活科と総合的な学習の時間を中心に、関連する教科・領域で横断的に取り組む。
- ・地域内外の人材を広く活用し、児童の興味・関心を支えるプログラム作り、実践に取り組む。
- ・主幹教諭(防災主幹)を中心とした防災教育に関するプログラム作り、実践に取り組む。

#### 《 ESDプログラム 》

学年	教科	単元名 など
1	生活	【地域】がっこうだいすき…通学路の、交通安全・防災の視点からの観察
2		【地域】あきのおもちゃ だいしゅうごう…葉や木の実を使ったおもちゃ作り 【地域】わたしのまちをたんけんしよう…身近な地域の方や場所を調査 【文化】わたしのまち大すき～平磯虎舞～…歴史や太鼓の打ち方などを体験
3	総合的な学習	【地域】地域の名人に学ぼう…学区内の名人の技術や知識の体験的学び
4		【福祉】まちのお年寄りや仲よくなろう…類似体験や高齢者との交流 【環境】エコプロジェクト～今、私たちにできること…自分たちにできるエコ活動
5		【福祉】障害について考えよう…キャップハンディ体験を基にした調べ学習 【環境】大谷の環境について考えよう…「ふゆみず田んぼ」での体験・観察。
6		【防災】大谷の防災について考えよう…日常的にできる防災・減災法の啓発活動 【地域】探ろうふるさと、考えよう未来の大谷…ふるさとの再発見と地域との交流 【地域】大谷から世界へ発信！…大谷の良さを新聞にまとめ発信(国語科との連動)
全校	行事	【防災】避難訓練(授業時・休憩時・下校時・緊急地震速報時など) 【地域】稲作体験(田植え・稲刈りなど) ※H26は、4～6年が実施

#### (2) 今年度、特に工夫・改善したこと

- ・避難訓練では、下校時(スクールバスを含む)、緊急地震速報時を取り入れた訓練、緊急時の保護者引き渡し訓練、幼小中が連携した地域ぐるみの避難訓練など、多様な形態での訓練を行った。

- ・生活科と総合的な時間を中心に、関連する教科・領域と横断的に取り組んだ。
- ・5・6年生の総合的な学習の時間では、地域の自然環境や産業の変化に着目し、復興と関連づけた内容で実施した。

### 3 「国連・ESD10年」を振り返っての成果と課題

#### (1) ねらい、及び学習内容（活動プログラム内容）の視点から

##### ①成果

- ・避難訓練では、多くの機関と連携することで、より良い避難の仕方について話し合うことができた。
- ・生活科では、地域の良さを知る学習を中心に活動し、総合的な学習の時間では、これからの地域を見つめることに重点を置き取り組んできた。児童の発達段階に即したプログラム構成が効果的であった。

##### ②課題

- ・地域の復旧・復興状況、また、児童の心情を考慮しながら、海を活用したプログラムの実施を検討していきたい。
- ・学校と地域の施設や組織等の結びつきを確立しながら、地域とともに教育活動を展開する必要がある。

#### (2) 指導計画、及び指導体制、指導方法の視点から

##### ①成果

- ・学習カードや児童作品等を引継ぎ、保存活用した。
- ・単元の構成として、課題作りから活動、表現までの流れをサイクルとして、児童の思考を深めた。

##### ②課題

- ・地域が変容していることから、年度毎の反省が生かされるように柔軟な取り組みが必要であった。

#### (3) 育てたい資質・能力に対する児童生徒の変容、評価の視点から

##### ①成果

- ・多様な避難訓練により、一人一人が避難行動を考える防災への意識が高まってきた。
- ・自分でできることを考え、家庭や地域で実践しようという意欲が見られた。
- ・人と自然の関わりや伝統芸能などを大切にしようという心情が育ってきた。

##### ②課題

- ・教科や領域などにおいて、ESDの視点を広く生かした活動を探る必要がある。
- ・ESDで育てた資質や能力を、単元のどの活動を通して身につけさせるのかを明確にしていく。

### 4 今後のESDの方向性

#### ～主体的・探究的・協働的な学習の充実、アクティブラーニングの推進等～

#### (1) 地域とつながり、学びを深める

- ・自分たちの地域を見つめ、より良い地域にしていこうとする心情を育てる。
- ・多くの人たちと交流できる環境作りをし、地域の一員としての心情を育てる。
- ・学びの場を、学校、家庭、地域へと広げ、組み合わせることによって地域と連携を図る。

#### (2) 他地域との交流から学びを広げる

- ・防災の観点から、他の地域や他国の災害及び復旧の様子に目を向け、地域の復興の手がかりを探ろうとする態度を育てる。
- ・学校ホームページや児童による新聞作り等で、自分たちが学んだことを発信し伝えようという態度を育てる
- ・交流から学び取ったことを自分たちの地域や生活に生かそうとする意欲を育てる。

#### (3) 自ら考えたことを表現し、伝えようとする

- ・自ら主体的に学び思考したことを、伝えようとする態度を育てる。
- ・自分の思いを伝えるための表現方法を工夫し、より良く伝えようという態度を育てる。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）